

1 学校教育目標

- 進んで考える子 ○仲よく助け合う子 ○心と体をきたえる子 ○最後までやりぬく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	生きる力を身に付けさせる学校 ○学ぶ楽しさや喜びを味わわせる学校 ○豊かな人間性を育む学校 ○健やかな心身をはぐくむ学校 ○家庭・地域と協同する学校
○児童・生徒像	○主体的に学び、自分の考えをもち、表現する子供 ○豊かな心をもち、互いに認め合い、高め合う子供 ○心身ともに健康でたくましい子供 ○何事にも意欲的に挑戦し、粘り強く努力する子供
○教師像	○児童に寄り添いよさを認め、励まし、一人一人の力を伸ばす教師 ○専門職としてすぐれた指導力をもち、意欲的に研修に励む教師 ○教育課題に適切に対応できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〔学校の現状〕

○ 児童について

明るく元気な児童が多い。登校班や縦割り班活動を通じて、他者を思いやる心も育ってきているが、一部の児童に着帽や名札を着けるという学校のきまりが守れないも少数います。学力の個人差が大きく、基礎的・基本的な学力の確かな定着と、思考力や読み取る力、学習意欲の向上に努めます。

○ 教師について

熱心に指導に当たる教員が多いが、本校初任者もしくは教師経験10年未満の教員が多く、指導力の向上に日々努めていきます。

○ 保護者・地域について

登下校の見守り、学校の教育活動への協力など大変熱心に活動してくれて感謝しています。一部の保護者について家庭学習の軽視など課題を抱える部分もあります。

〔前年度の成果と課題〕

○ 学力向上

区学力向上のための調査における経年比較では、毎年、通過率が向上しています。しかしながら28年度4月の調査結果では、当初の目標値である2科77.6%、国語75.7%、算数79.5%（27年度区平均値）を上回ることができませんでした。（通過率が2科74.1%、国語71.8%、算数76.4%です）12月の再テストでは、通過率が2科85.9%、国語86.6%、算数85.1%であり、全てで目標値を上回ることができました。基礎的・基本的学習内容の定着が不十分な児童に対する指導が課題です。さらに個の実態に応じた指導の展開を図る必要があります。

○ 豊かな心の育成

豊かな心の育成に関わる学校評価アンケートの結果は、①保護者への連絡は適切か…88%②人権を尊重する指導は適切か…90%③児童の努力を認め励ましているか…88%④道徳を重視し思いやりの心を育てているか…85%⑤役割や責任を果たそうとする児童を育てているか…87%⑥児童の悩みやトラブルを見逃さずに指導しているか…78%（不明12%）。いずれの項目も不明が5～6%あるため、目標であるAB評価88%以上は達成できたものと考えます。児童のトラブル対応については、肯定的な評価があまり高くないので、課題といえます。引き続き個々の教員の指導力を高めると同時に、学校の対応力も高めていきます。心ない言動を取る児童がいるので、さらに豊かな心の育成のための指導を充実させていきます。

○ 体力の向上

各取り組み項目に対する児童の「楽しい」とする評価の、平成27年度との比較は（27年度→28年度）次のとおりです。朝マラソン・持久走記録会44%→53%、西二ギネス65%→74%、先生方との休み時間の運動遊び83%→89%、縄跳び（長縄・短縄）の取り組み62%→81%でした。（4項目平均74.3%）いずれの取り組みにおいても、前年度よりも児童の評価に向上が見られます。しかしながら、朝マラソンや持久走記録会の取り組みのような克服的な要素が強い運動については、依然として評価が低い傾向にあり目標とする数値には達していません。体力の向上を目指してさらに取り組みの改善を進めていきます。

4 重点的な取組事項						
番号	内容	実施期間				
		27	28	29	30	31
1	基礎的・基本的な学力の定着、向上	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力の向上	○	○	○	○	○

5 平成29年度の重点目標

重点的な取組事項－1		基礎的・基本的な学力の定着、向上	
A 今年度の成果目標		平成29年度区学力調査 目標通過率（学校平均）	
国語・算数の学習内容を定着させ、理解の程度を向上させる。		2科77.2%、国語77.1%、算数77.2%（平成28年度区平均値）	
B 前年度の取組み内容			
項目		具体的な方策	
西二タイム（個別指導）の充実		①2月に実施する区学力調査から作成する個人カルテに基づく指導。 ②系統性が明確な算数を20時間、国語を10時間で実施。 ③課題の多い学級に専科教員を配置し、複数の教員での指導。	
毎日の放課後の補習学習		①区学力調査の目標値に達しない児童を対象として実施する。 ②課題の多い学級に専科教員を配置し複数の教員での指導 ③低学年を中心とした保護者、地域のサポート	
家庭学習		低学年30分、中学年40分、高学年50分の学習時間を設定し取り 組ませる。	
小中連携		①全体会2回。分科会、研究授業を各3回実施する。 ②夏季休業中に10日間実施する。	
C 前年度の成果と課題			
<p>区学力向上のための調査における経年比較では、毎年、通過率が向上している。しかしながら28年度4月の調査結果では、当初の目標値である2科77.6%、国語75.7%、算数79.5%（27年度区平均値）を上回ることができませんでした。（通過率が2科74.1%、国語71.8%、算数76.4%であった。）12月の再テストでは、通過率が2科85.9%、国語86.6%、算数85.1%であり、全てで目標値を上回ることができました。</p> <p>基礎的・基本的学習内容の定着が不十分な児童に対する指導が課題である。さらに個の実態に応じた指導の展開を図る必要があります。</p>			
D 今年度の目標実現に向けた取組み			
項目		達成基準	
西二タイム（個に応じた）の充実		<p>①2月、4月に実施する区学力調査から作成する個人カルテに基づく指導。</p> <p>②個に応じた丁寧な指導を、年間30回実施する。系統性が明確な算数を20時間、国語を10時間で実施。</p> <p>③課題の多い学級に専科教員を配置し、複数の教員での指導。</p>	
		<p>①検証サイクルを明確（4月：結果分析、SP表・個人カルテ作成→5～7月指導→7月再テスト、分析、個人カルテ修正→サマースクール、9～10月指導。10月後半：現学年の状況調査、結果分析、現学年の個人カルテ作成、11・12月指導、1月再テスト、結果分析、1～3月指導）にした指導。</p> <p>④低学年は主に東京ベーシック（1年生はMIMも）、高学年は主に次へのステップを活用する。*児童の実態に応じた取り組みとする。以下同じ。</p>	

放課後の補充学習	毎週、3回以上実施する。	①区学力調査の目標値に達しない児童を対象として実施する。 ②課題の多い学級に専科教員を配置し複数の教員での指導 ③主に足立区版次へのステップを活用する。
家庭学習	児童の87%が目標時間を達成する。	低学年30分、中学年40分、高学年50分の学習時間を設定し取り組ませる。
継続的、補完的な学習の取り組み	①朝学習 ②リカバリータイムを週3回実施する。 ③ベーシックタイムを年間15回実施する。	①火曜日：漢字、木曜日：計算（東京ベーシック、次へのステップ）、金曜日：読書を実施する。 ②宿題忘れ、課題未達成の児童を対象に行う。 ③3・4年生の対象児童に対して行う。
夏の補充学習	夏季休業中に10回実施する。	西新井中学校とサマースクールへの相互協力を行い、個別指導に近い形で指導を行う。
指導力の向上	教科指導専門員の指導を全員が12回以上受ける。	「主体的に学ぶ子の育成」「活用力の向上」をテーマとした授業を行い、指導を受ける。→教科指導専門員の配置方法の検討をお願いしあたい。1週間学校に継続して配置するなど。 OJTとしても取り上げる。

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成
A 今年度の成果目標		達成基準
思いやりのある優しい子の育成		学校評価アンケートで教員、児童、保護者、からのAB評価を90%以上にする。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
心の教育の充実	①いじめ（人権尊重）に関する授業を年3回実施する。 ②奇数学年での保育園との交流の充実	①いじめ防止強化月間（6月、11月、2月）に授業を実施する。 ②1年：学習体験、3年：保育園訪問、5年：給食体験・交流会 要望：西二ギネス見学、ワクワクセンター体験、西二フェスティバル体験 引き続き3園交流の場の提供
学校生活におけるきまりの定着	きまりに関わる取り組みを、児童の85%以上が実践する。表彰	週目標の定量化を図ると同時に、毎日振り返りを行い、主体的にきまりを守ろうとする児童を育成する。
学級活動の充実	児童の自発的・自治的活動を12時間以上確保する。	①話し合い活動に基づき、PDC（A）のサイクルにのっとった活動を行う。 ②OJTに学級活動を取り上げ、教員の指導力を高める。
*縦割り班活動		全校遠足、なかよし班遊び、ギネス
*生活科・総合的な学習の時間の充実（社会に開かれた教育課程、主体的で深い学びの実現に向けて）	各学年の現行の単元計画を、思いやりのある優しい子の育成の視点を加味し、1～3単元工夫・改善した者を作成する。	例 1年…保育園との交流 2年…次へのステップ 3年…保育園との交流、地域学習 4年…1/2成人式 5年…保育園交流、赤ちゃん先生 6年…地域防災、高齢者との関わり

重点的な取組事項－3		体力の向上
A 今年度の成果目標		達成基準
運動することが好きな子を増やす。		運動遊びが楽しいとする子を、 85% にする。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
日常的な体育的活動の充実、工夫・改善	1年間継続して体育的活動に取り組む。	朝マラソン…火曜・木曜の8時15分から5分間、 マラソンカードを活用し意欲付けを図る。 西二ギネス…年間8回取り組む。 活動方法、記録方法を工夫（自己の記録への挑戦など）し意欲付けを図る。
日常的な運動遊びの奨励	外遊びが楽しいと感じる子を、 90% にする。	学級担任が外遊びを働きかけると同時に、週番が休み時間に校内を見回り（ 各階の分担を決め、状況を記録する。 ）、外遊びを働きかける。
季節の体育的活動の充実、工夫・改善	具体の活動での児童の肯定的な評価を 75% にする。	①長縄跳び・短縄跳びの取り組みを、11月・1月に1ヶ月取り組む。 記録に挑戦するなど競争的要素を取り入れ、意欲付けを図る。 ②持久走記録会を中心としてマラソン旬間に取り組む。 体育科の学習と連携させ、自己の記録の向上を目指す視点を取り入れる。